

東陽織物株式会社



織りの工程で織り柄を加えたもの、用途に応じて遮光度を変えたものなど、幅広い商品展開を行う。

TOP MESSAGE

現在、繊維産業は、日本から中国、そしてベトナムをはじめとする東南アジアへ広がりを見せています。いずれは部材や人材の確保、販路の拡大などを含めてインドやパキスタンなど、さらに大陸にむかって広がっていくことが想定されます。

そうした予測を踏まえると、日本からあまりにも遠い国へ直接進出することは難しいかもしれません。そうした一歩先のことも考えながら海外進出事業を検討していくことが大事だと感じています。実際に、今後そうした局面に立った時、自社のベトナム法人が中間拠点として機能してくれると期待しています。

会社設立・1947年5月
社長・越澤 総一
資本金・5,000万円
従業員数・52人

〒920-0036
石川県金沢市元菊町17番33号2F
TEL.076-221-4151
FAX.076-221-1530
<http://www.toyo-textile.co.jp/>



1



3 2

- 1 樺の梁を加工して作られた、一枚板の大きなテーブルが目印のミーティングスペース。
- 2 創業当初の社屋の完成予想図。見る度、初心を忘れないでおこうと思わせてくれるという。
- 3 創業当初に知り合いからもらった古時計。創業から100年以上、時を刻みつつけている。

全ての生産拠点を海外へ 大きな決断の成果とは

インテリア製品、ポリエステル製生地
の製造を行う『東陽織物株式会社』。
1917年に創業し、100年の歴史
を誇る。

元々、日本で操業していた工場は
1500坪ほどで、織物工場として
は手狭であった。当時、受注の半分は
自社工場にて、半分は外注生産による
体制をとっていたが、経営資源を企画・
営業に集中させるために100%国内
外注体制に切り替えた。また、織物業
界の国内市場が縮小傾向にあったこと
を危惧し、2002年、海外での委託
生産を検討し始めたという。

遡って1993年、取引先であった
商社からインドネシアでの技術指導の
依頼が舞い込み、日本から社員を1年
半ほどのローテーションで現地に派遣
し技術指導を8年ほど行った。その経
験が後のベトナム進出に大きく役立っ
たという。

海外での委託生産のパートナー企業
を模索してきた中で、原糸の調達を
行っていたベトナム企業に目を付け
た。その企業は繊維工場を立ち上げて

いたが、製造にかかるノウハウを求め
ていた。いかに一流の機械設備が揃っ
ていたとしても、機械設備の調整方法
や糸のセッティング、問題発生時の対
処方法等に関するノウハウが不十分で
あれば、生産性は損なわれてしまう。
当社がこれまで国内委託生産により
培った技術やノウハウ、インドネシア
での技術指導の経験を生かすことで、
大きなビジネスチャンスを生み出す
ことができた。創業100年の歴史で
蓄積した、原料手配・糸加工・織・染め・
プリント工程の品質・生産管理のノウ
ハウそのものが、当社の差別化要因と
して大きな武器になることを実感し
た。

現在、海外は仕入先としての側面だ
けではなく、海外で繊維製造にかかる
技術サービスを提供する販売先として
双方方向の関係へ深化し、これこそが新
しいビジネスモデルとして機能してい
るという。

【知財ポイント】

創業時から蓄積した、
原料手配・糸加工・織・
染め・プリント工程の
品質・生産管理のノウ
ハウのマニュアル化

【波及効果】

技術サービス(ノウハ
ウ)を提供するビジネ
スの更なる発展



5 4

4 現社長を務める越澤総一氏(写真右)と、将来は社長に就任する予定の専務取締役・越澤亮二氏(写真左)。

5 遮光カーテンをはじめとした機能性の高い高品質な製品を生産、販売している。

6 カーテンのデザインを担当する指田さん。年間20～30種のカーテンの生地選びからデザインまでを行っている。

7 開発時の生地の研究、製品トラブルが起こった際の検査などに用いる検査機器をオフィス内に完備。



7

6

ノウハウを見える化 グローバル人材の 育成にも尽力

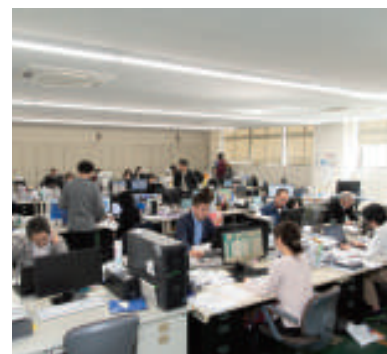
前述の通り、創業から100年間で積み重ねてきた技術、ノウハウは大きな財産となっている。ベトナムに常駐する日本人スタッフは4名。ベトナムで結婚した社員もいるほど、現地の生活にも馴染み、現地で働くベトナム人スタッフたちとの関係も良好だ。それでも、職人技を伝えることの難しさを日々実感しているという。そこで、技術者が蓄積している技術・ノウハウを様々な角度から定量的にマニュアル化(見える化)するという新しい方法で社内での技術伝承を試みているという。技術者は人間の五感をフル活用した熟



本社営業職に就く、ジャンさん、マさん(写真左から)。言語力を活かし、グローバルに活躍している。

練技術を保有しているため、将来的には、センサー機器を活用することで、それらを定量的に解析し、五感に頼らずとも高度な品質管理を実現する体制構築を目指している。

生産拠点が海外となり、国外での商談が多いことから、本社に所属する営業スタッフに週1〜2回の英語教育を行っている。また、人材を育てる新たな試みとして、2018年に地元大学生のインターンシップ制度を導入した。ベトナムへの渡航費は当社が負担し、実際に稼働するベトナム工場にて受け入れた。こうした試みは、海外で働くことに抵抗感を無くし、異文化コミュニケーションの醍醐味を味わって貰うことが狙いであった。国内、海外を問わず、世界を股にかけて活躍してくれる人を応援していきたいという。



オフィスは一室にまとめられ、すばやい情報共有がしやすい環境づくりを行っている。